

平和を次世代につなぐために

集団的自衛権の行使をできる「普通の国」をめざす安倍政権。70年前の戦争の教訓を胸に、「戦後」を、「戦前」にしないため、全国各地で繰り返される平和を守り続ける活動を紹介します。

広島県尾道市

「反核平和」への決意を行動で

市町村合併による見直しで、「反核平和のリレー」コースから外れてしまった尾道市御調地区。これまで「反核平和」への決意を伝えてきた保育所の子どもや保護者とともに、「平和の火リレー」として再出発しました。(本誌四〇頁)



東京都江川区

世代を越えた経験の継承

一九四五年三月一〇日の東京大空襲では下町を中心に多くの被害ができました。すでに戦後生まれが人口の八割を超えるなかで、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代につなぐ努力が続けられています。(本誌四五頁)



長野県

歴史にねざした「平和への想い」

幅広い層の呼びかけで結成された「戦争をさせない1000人委員会・信州」の活動は県内全域に広がっています。草の根で広がる平和を願う活動の背景には、長野県民の心に残る歴史の教訓がありました。(本誌五一頁)



DVD 紹介

戦後70年 ヒロシマ・ナガサキ 元自治労組合員の証言

——被爆体験の継承と平和への願い

自治労では、戦後70年ということで、広島と長崎で被爆された元組合員の方に語っていただいた体験と平和への想いをまとめたDVDを制作しました。各県本部に2枚ずつ配布しておりますので、貴重な体験を語っていただいたDVDをぜひご覧ください。

- ①被爆体験3人の証言 ②島田四郎さんの証言
- ③森重子さんの証言 ④川野浩一さんの証言

2015年5月 発行/自治労 制作/㈱レーベン企画

